

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年2月5日(2009.2.5)

【公表番号】特表2008-525369(P2008-525369A)

【公表日】平成20年7月17日(2008.7.17)

【年通号数】公開・登録公報2008-028

【出願番号】特願2007-547502(P2007-547502)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/81 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/81

A 6 1 Q 19/00

【手続補正書】

【提出日】平成20年12月10日(2008.12.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項3】

式(I)で表わされるカチオン性アクリルモノマーが、アクリロイルオキシエチル-トリメチルアンモニウムクロリドおよびメタクリロイルオキシエチル-トリメチルアンモニウムクロリドから選択される、請求項1に記載の逆エマルジョン。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項4】

逆エマルジョン重合により得られるアクリルポリマーが、2または3以上のエチレン基を含む0.01~1重量%の化合物と架橋している、請求項1~3のいずれかに記載の逆エマルジョン。

【手続補正3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項6

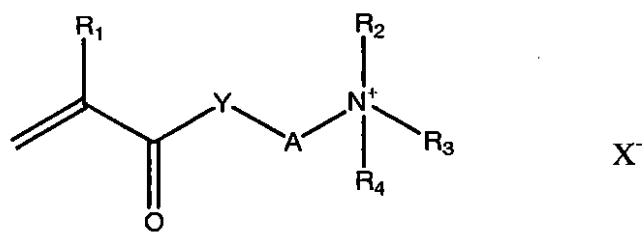
【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項6】

逆エマルジョンの製造方法であって、
a. 40~60重量%の水および、残りの重量パーセンテージのアクリルモノマーの混合物からなる組成物を調製すること、ここで該アクリルモノマーの混合物は、
i. 90~99.9重量%の、強酸性官能基を含むアニオン性アクリルモノマー；
ii. 0.1~10重量%の、式(I)：

【化2】



式中、

R₁は、水素またはメチルであり、R₂、R₃、R₄は、互いに独立して、水素またはC₁～C₄アルキルであり、

Yは、NHまたはOであり、

Aは、C₁～C₆アルキレンであり、

Xは、塩素である、

で表わされる、カチオン性アクリルモノマー；

からなり；

b. a. で調製した組成物に、pHを4～7の間に調節するためのアルカリの水溶液、架橋剤、およびラジカル重合開始剤を加えること、および温度を3～7 の間に維持すること；

c. 1種または2種以上の油中水型乳化剤を含む有機相を調製すること；

d. b. で得られた混合物を、c. で調製した有機相に導入し、2つの相を強く攪拌することにより乳化すること；

e. 重合を開始させ、強く攪拌しつつ温度を55～95 の間に維持しながら、重合を終了させること；

f. 反応混合物を35～45 の間に冷却し、水中油型乳化剤を加えること；

を特徴とする、前記方法。